

平成 27 年度 第 3 回武蔵野市環境市民会議 記録

日時 平成 27 年 10 月 22 日 (木) 18 時 30 分開会 20 時 00 分閉会

場所 武蔵野市役所 812 会議室

出席者 委員 17 名、事務局 6 名、コンサルタント 1 名

(委員：田畑委員長、大江副委員長、飯沼委員、大作委員、力元委員、小玉委員、志賀委員、鈴木委員、中島委員、田崎委員、西上原委員、白田委員、羽島委員、花俣委員、三浦委員、村越委員 郡委員)

内容 1. 武蔵野市第四期環境基本計画について

2. 自由意見 (委員挨拶等)

1. 武蔵野市第四期環境基本計画について

計画最終案に対する意見は出されなかった。

2. 第四期環境基本計画の感想及び、第八期環境市民会議 (今回で期間終了) への感想

発言者	要旨
委員	本委員会に参加し、市の環境について勉強できた。エネルギー事業者の弊社 (電力会社) としては、環境方針 2 のエネルギーの地産地消のところに關係しており、今後もスマート化など市と協力していきたいと考えている。学習についても、できる範囲で協力していきたい。
委員	施設見学では、市の施策について改めて知る機会が得られた。弊社はビル管理と廃棄物運搬をやっており、廃棄物関係では 20 台程ある車両の運用について、安全対策と、効率的な運用に努めていきたい。
委員	パブリックコメントに関して、弊社 (ガス会社) の事業に参考になる部分が盛り込まれている。良い答申になったと思う。 用語解説の修正として、コージェネレーションについて、「供給する」を「活用する」に、「熱利用効率が高く」を「総合エネルギー効率が高く」に変えていただきたい。
委員	私どもの活動 (クリーンむさしのを推進する会) にふれていただいたのはありがたい。境地域は踏切がなくなり、南北が一体化し激変した。コミセンは 3 地域融合の取組を始めている。桜堤の若い方々は、上水や境周辺の自然環境や境周辺の自然環境を気に入って住み始めたといい、私どもの活動に興味を持っている。3 地域が連携し、新しい人たちとコミュニケーションを交わしながら、環境面での達成につなげていきたい。
委員	事業者の役割に関して、エネルギーの効率的利用等について積極的に呼びかけているが、弊社 (横河電機) でも従業員が何千人もいるので、今日できていても明日できなくなることもある点を痛感しており、きちんと推進していきたいと思っている。緑に関して、弊社構内に大木シンボルツリーに登録した樹木が 30~40 本ほどあったのが、社内事情により手放したものがあり、社内から疑問の声を受けたことがある。これからはごみやエネルギーだけでなく、緑等の環境保全にも取り組んでいきたい。
委員	環境の難しい話では用語がわからなかったもので、用語解説でわかりやすくなった。ただ、「長期計画」がタ行でなくカ行の「基本構想・長期計画」とあったため、すぐに引けないことがあった。中学生の娘が「今は 3R でなく 5R だ」と言い、よく勉強していると思った。中学生レベルにもわかりやすいものになっており、機会があれば子どもたちにも見せたい。
委員	自営でワインを扱っていて、環境の知識を広げたいと思い、応募、参加した。ここの

	委員だけでなく、一般の市民も地域の環境に関心をもってよく考えていることがわかった。居住して5年の自分にも市のことを知る機会となり、スマートシティの将来像に好感をもった。
委員	私（井之頭小学校長）の学校は、都の愛鳥モデル校にもなっていて、自然についての取組が進んでいる。計画の中では、小学校にかかわることが多くあって、副読本も見直したいと考えた。各小学校の屋上に太陽光発電があるのだが、どう活かすか、活かされているかが教員や生徒にまだ伝わっていないので、もう少し取組が必要と思う。環境フェスタでは、夏休み自由研究の作品展示で参加した。また、生き物の講演の中で鳥についての話があって、児童たちは楽しみにしていた。
委員	第三期とかなり違う議論となった。計画の位置付けで、第三期までは地球温暖化対策法という大きなものと絡めて、国の温室効果ガス排出削減とリンクさせていたが、市民生活からは距離感があり、市が市民と何をするのがわかりにくいと思っていた。これまでエコシティだった環境像が、今回スマートシティになっている。エコシティはこれからも大事だが、時代は変わってきている。気象の異常が多く見られ、そのような点が市民から見る環境問題で何ができるのか紐解く入り口と思っている。計画は法律などで大上段に構えがちだが、市民会議の議論を踏まえて、今回は市民生活の視点に戻ることができた。市のフィールドで実感できる環境対策が重要であり、今後も御意見、御知恵を頂ければと思う。
委員	3つの重点項目やトピックスで、実施している様々な取組がよくわかる。私達（成蹊大学）は、市と連携した取組を多々行っており、例えば資料編にあるヒートアイランド現象の調査がある。今年もグリーンカーテンを大学で実施するなど、市をフィールドとして活動している。今後も大学として地域に貢献していければと考えている。
委員	武蔵野市にはJRの駅が3つもあり、他からうらやましがられる街である。行政としても恵まれているが、裏側にはごみ問題がついてまわってきた。一人あたりのごみの量は、目標を達成してきた今でも、多摩地域の平均よりも多い状況が続いている。商業者がごみに関心を持つようになり、まちがきれいになってきた。こういう計画書ができてよかったと感じる。ごみ問題は永遠に続くので、これからもよろしくお願したい。
委員	私ども（コミュニティ研究連絡会）は、市内のコミセンの連絡会を毎月1度行っている。地域の懇談会で、安心安全のためのまちなみウォッチング（パトロール）をやり、市へ報告を上げたところ、防犯・防災・美化の成果があった。また、井の頭通り街路樹のポイ捨て対策のために、都の建設局の助成金を活用した草花の植栽活動を行った。PTAのボランティアの協力も得て、実施することができた。このような活動では、都、市、水道局など、どこに相談すればよいかわかりにくいので、横のつながりのある窓口があるとよい。今後環境面において市民活動推進課へ、コミセンに何を期待するかを伝えていただければと思う。
委員	第三期よりも、ストーリー性があり頁がめくりやすくわかりやすい内容になった。学校ビオトープが、生きものの生息場所になっているので、今後も充実させると市の生きものの環境がよりよくなっていくと思う。
委員	環境という言葉に観念的にふりまわされない、生活の面から確かな消費者を育てていくことが、私達（消費者運動連合会）の大事な役目と考える。情報提供について、武

	<p>蔵野市全体でどのように取り組んでいくかが課題である。資料編についてわかりやすいものになってよかった。子ども達への環境教育は、ごみだけではなく、この計画のようなことをみんなが考えているということを切り口にした冊子ができると嬉しく思う。</p>
委員	<p>キロワットとキロワットアワーの違いについて、一般にはわからない人も多いので、わかりやすく示せるとよい。</p> <p>第三期計画の評価について、第四期計画へのつながりが見えない。これからどのように定量的にチェックするのか、イメージされていないように感じる。</p>
副委員長	<p>自分が関わってきたごみ関係の議論に比べて、環境はポジションが多様かつ問題が広範囲で、自分の関心の部分だけでなく、色々関わって勉強しなくてはならない。調整が難しい。亜細亜大学の近辺がようやく便利になり、まちづくりには時間がかかり、コンセンサスを取りながら一つひとつ積み重ねていかなくてはならないということ強く感じた。武蔵野市としての環境を見ていくのが大切と、勉強させられた。</p>
委員長	<p>基本計画というものは先を見ようとするが、状況も刻々と変化していく。例えば、三鷹駅前には驚くほどの勢いで変わり、吉祥寺も武蔵境も大変な変わりようである。本計画がどういう方向で成果を見るのか、はっきりとは断定できないが、次の若い世代が引き継いで武蔵野市の環境づくりを行うことになる。考え方は、基本的に変わらない面もある。市民会議委員の皆さんには、こんな議論があったということ、時々思い出していただければと思う。</p>
事務局	<p>欠席の委員からのメッセージを紹介する。「多くの課題があつて大変であつた。すぐに成果がでないものもたくさんあることも認識した。ここでの取組を地域に展開できたらよりよいと思う。これからもこのような活動に参加したいと思う。」</p>